

平成20年12月2日

豊田市長 鈴木 公平 様

稲武地域会議

会長 山田 忠行

### 意見書の提出について

稲武地域は豊田市の最北東部に位置しており、都市と農山村の交流連携を推進し、広大な市域の一体性を図るためにも道路整備、特に一般国道153号における新伊勢神トンネル・橋梁などの計画・事業化は本地域にとって必要不可欠となっています。

以上のことから、稲武地域会議では山間地域の将来を見据えた振興を推し進めるうえで、下記事項について意見書を提出しますので、国へ強く要望していただくようご検討ください。

### 記

#### 1 新伊勢神トンネル・橋梁整備（明川・連谷・小田木町地内）

車両の大型化・重量化、更には中央自動車道の恵那山トンネルが危険物積載車両の通行規制区間となっており、その代替路線としての役割を果たすなか、幅員狭小な現在のトンネルでは安全な通行に支障を来している。重大な車両事故等の発生を回避するため、新伊勢神トンネル及び接続する橋梁の早期事業化を図る。

#### 2 道路改良整備（小田木町地内）

高田木橋付近では、道路屈曲の強い箇所（2箇所）があり、円滑な交通の妨げとなっている。また、雨量規制（連続雨量150mm）区間にも指定されており、道路法面などの地質が悪く、法面・路肩崩落及び土砂災害の危険性があるなどの問題を抱えている。さらに、当路線は東海・東南海地震等災害時における第1次緊急輸送道路にも位置づけられており、早期に改良計画を立て事業化を図る。